

武雄市は平成 24 年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっているように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学 6 年生、中学 3 年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立山内東小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(4 月)	(4 月)	(4 月)	(4 月)
	72.6	76.0	71.7	72.0
	(1.08)	(1.15)	(1.16)	(1.16)
R 6 正答率の全国比		1.12		1.13

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

- ・ 国語科、算数科ともに、正答率は県や全国平均を上回った。

【国語科】

- ・ 観点別にみると、「知識・理解」「思考・判断・表現」のどちらも、正答率は全国を上回った。また、「話す・聞く」「読む」「書く」の領域全般においても、正答率が県や全国を上回った。
- ・ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題での正答率が県や全国を下回った。条件を満たして書くことができなかった点で課題が見られた。

【算数科】

- ・ 観点別、領域別ともに、正答率が県や全国を上回った。
- ・ 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか」をみる問題では、正答率が県や全国を上回っているが、38.1%で低い正答率であった。
- ・ 「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうか」をみる問題においては、正答率が県や全国を下回った。データの活用を踏まえていても、式化する点で誤答がみられた。

【質問調査の結果から】

- ・ 「自分には、よいところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか」の項目で、ほぼ90%の児童が、肯定的に回答していることから、児童の自己有用感や幸福感が、落ち着いた学習につながっている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」や「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の項目に肯定的に回答している児童が95%を占めている。これらのことから、主体的・対話的で深い学びに取り組んだり、協働的に学び合ったりすることができていると考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【書く活動の充実と協働的な学習の充実】

- ・ 「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1 & 2」をふまえ、授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりする活動を仕組み、児童の考えを相互に交流させる。
- ・ どの教科においても、書く活動の場を積極的に取り入れていく。日記や作文指導においては、苦手意識をもつ児童を考慮して、モデル文を提示したり、興味をもつテーマ作文に取り組んだりしながら、「書き慣れる」力を育てていく。
- ・ 自分の考えを書いた内容を発表や友達との交流に生かしたり、グループや全体場で話し合ったり練り合ったりすることを通して、自分の考えを深めたり、友達と伝え合ったりする楽しさを育んでいく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 学校行事、集会行事や校外学習等において、感想交流の場を設け、児童が自分の考えを伝える機会を増やすことで自信につなげていく。
- ・ 「山東っ子の学習習慣」に継続して取り組むことで、学習の土台づくりへとつなげる。
- ・ 学習習慣調査を行い、家庭での学習時間を見直したり、共通理解をしたりすることで家庭との連携を図っていく。